

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教学人日本バプテスト連盟総務部

<福島でつらいこと～原発課題コラム> 南光台キリスト教会 笠松絹子*

『今もまだ すやすや 寝息の 聞こえる この子等の その柔らかな まつ毛や頬を 撫でていました
被ばくさせる為に 産んだのではない 被ばくする為に 産まれたのではない』

『福島でつらいこと 今日 子どもが 鼻血を だしました 多分 乾燥していたせいかな 多分 暑かったからかな
きっと 触ってたからかな そうだ ぶつけたのかな なんて 思い込みか 言い訳を かれこれ 何回も しています』

これは、私が被災支援で出会ったおひとりで、我が子の被ばくにおびえる母の詩です。

“こどもたちの命を、そして未来を守りたい”との思いで日々を生きている人たちから多くの共感が寄せられています。

福島第一原発事故により、福島県だけでなく宮城県、岩手県、関東地方など広範囲にわたり放射能汚染されました。原発から約60km以上離れた宮城県南部でも、放射線管理区域にしなければならないほど汚染されたと見られています。自然の美しい所で米の産地であり山の恵みも豊かな地。しかし、子どもたちは自然豊かな環境で伸び伸び遊ぶ生活が奪われ、家族は子どもの健康、生活の不安や心配を抱えながら日々を送る生活。高齢者でも放射性物質名がわかるなど異常な、これまでの生活からは到底想像もできない現実に直面しました。

現在は空間線量が事故当初より下がってきているものの、低線量被ばくのリスクなど、特に大人より放射線に感受性が高いとみられている子どもの健康に及ぼす影響が懸念されています。

一方、放射能の話題がメディアからめっきり少なくなり、世間ではそれはなかったかのような雰囲気、そして放射能の話題は口に出せないと思わされる状況の中で、親たち、特に母親たちの苦悩は深くなっています。被災当事者がそれぞれの立場や考えで全てを判断せざるを得ない現実。重い選択が個人に負わされ続ける現実があります。被災地では、ますます「いのち」に寄り添う支援が大切になっています。これからもお祈りに覚えていただければ幸いです。

※ 原発課題班では、笠松氏ご自身が携わっておられる仙台市にあるNPO法人での放射線量計測実務を通して、放射線被災の現況を皆様に共有していただくために原稿を依頼しました。

震災（福島第一原発事故）から4年以上を経て感じる事

郡山コスモス通りキリスト教会 斎藤健生

福島第一原発事故から4年以上を経て、私自身が福島で生活する中で、仮設住宅の支援等で人伝いに聞いた話やSNS、ネット等で飛び交う言葉を見てみると、根拠の無い話や思い込みによる誤解や喧嘩、差別が未だに多くあり、冷静に物事が見れていないのではと感じる事があります。中には、なぜこんな言葉を吐けるのかと思う物もありました。しかし、落ち着いて考えると、こんな事を言う方々の中には、苦しい状況にあっても見向きもされなかった方もいるのではないかと感じる事があります。私自身の知らない所で置き去りにされた方々がいるのではと感じると、とても複雑な思いになるのが実情です。

被災地に住んでいる方と言っても、苦しい状況の度合いは人それぞれです。今後の生活の目処が立っている方がいる一方で、未だに先の見通せない状況から脱する事が出来ずに苦しんでいる方も多のが現実です。住む場所を追われた方、ご家族やご友人を亡くされた方に至ってはその苦しみはどれほどのものなのか、想像し難いほど重いものかもしれません。しかし、被災地でなくとも昨今の厳しい社会状況を見るにつけ、不安定な雇用や劣悪な労働環境、貧困、病気、差別等で苦しんでいる方も多いのではないかと感じます。ここで生活し被災者支援に関わっていく中で、本当に苦しんでいる方々にきちんと視線を向ける事が出来ているのだろうか、改めて問われているように感じてなりません。

そのような思いの中で、先日、私たち、郡山コスモス通り教会では、震災募金からの支援による「子ども避難保養プロジェクト」として子供たちと一緒に焼肉と温泉に行きました。教会員、特に子供たちの健康の事を考え、免疫力を高める為に体力（筋力？）を付け、リフレッシュする事を目的として計画したものでした。偏食の子もいるので多少不安でしたが、みんないっぱい食べたようです。子供たちの嬉しそうに食べる姿が微笑ましかったです。皆さん楽しめたようで本当に良いひとときでした。

震災から4年以上経ちましたが、未だに震災や原発事故を巡り様々な不安や複雑な思いを抱えて過ごしているのが私たちの状況です。そのような中で私たちや被災地の事を覚えて祈り、支えて下さる方々には本当に感謝の思いで一杯です。



左図は9月5日現在の「ふくしま復興ステーション」による避難指示区域の概念図です。

- 東京電力福島第一、第二原子力発電所
- 高放射線量による「帰還困難区域」
- 将来の帰還を目指し除染等を行い、基盤施設復旧を目指す「居住制限区域」
- 帰還のための環境整備を目指す「避難指示解除準備区域」

福島仮設住宅を訪問して

神奈川連合災害対策委員長 根塚幸雄(横須賀長沢キリスト教会)
10月24日～24日に福島を訪問しました。昨年度2回、神奈川連合では、壮年会、女性会、神奈川連合災害対策委員会の共同主催で福島を訪問をしました。今年もそれを継続しようということで実施しました。8教会から合計10名の方が、参加してくださいました。申し込みは、一人、また数日たって一人とあり、一人一人を神様が呼び起こして下さったというように感じました。とても感動しました。

24日に、郡山コスモス通り教会の金子先生と教会の方々と一緒に仮設住宅を訪問させていただきました。郡山コスモス通り教会では、2011年から毎月欠かさずに、この訪問を続けておられると聞き驚きました。福島の実状は、行かなければ分からなかったことが多く、来ることの重要性を痛感しました。仮設の方々、福島の方々のことを今後も継続して祈ることの大切さを教えられました。また、自分も被災者であるのも関わらず、こうして隣人のために労しておられる郡山コスモス通り教会の方々に頭があがりません。自分の時間や家族の時間そして教会の奉仕をしながら継続することはご苦労も多いのではないかと思います。神様が教会の方々とそれを一緒に支えておられる家族の方々を顧み守って下さることを祈ります。そして神奈川連合でもできることがあれば、ぜひ連絡いただきたいと思ひます。



震災募金にご協力ください 2015年度標額：1400万円（国内・国外） 2015年11月までの実績：552万円

<2015年11月30日募金者（受付順、敬称略）>39名(口)の方々から献げられました。心から感謝申し上げます。

愛の園保育園、小樽、中野、関西黎明、全国教会学校の集い席上、中野、香住ヶ丘、福岡、市川八幡、大阪、仙台地区バプテスト伝道協議会、シンガポール国際日本語教会、高須、鹿児島、古賀、高須、日立、大分、目白ヶ丘、菊池シオン、調布、宮原、豊橋、福岡西部、調布、中野、久保祐子、旭川東光、松本蟻ヶ崎、西南学院、大村古賀島、秋田、宮崎、太田、相浦光、仙台教会組織60周年復興コンサート、鹿児島、山本愛子、中国・四国連合東ブロック修養会